九州地方

名前

問1　地形図において大規模なくぼ地として示される地形で、火山の噴火活動によって形成された円形や馬蹄（ばてい）形の地形を何といいますか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. カルデラ
2. 扇状地
3. 火口
4. 盆地

問2　沖縄県は年間降水量が全国的に見ても多い地域ですが、古くから深刻な水不足に悩まされてきました。その自然環境的な理由として最も適切な説明を選びなさい。（2020年 静岡県公立入試 類似）

1. 年間を通して日照時間が非常に長く、ダムに蓄えられた水の大部分が蒸発して失われてしまうから。
2. 山地から海までの距離が近く河川の長さが極端に短いため、降った雨が蓄えられず速やかに海へ流出してしまうから。
3. 地形が平坦で大規模な盆地が多いため、雨水が地表に溜まらずにすぐ地下へ浸透してしまうから。
4. サンゴ礁が発達している影響で、河川に塩分が混じりやすく飲料水として利用できる水が限られているから。

問3　九州地方の各県における農地の構成を比較した際、ある県では全耕地面積の約6割以上が畑地によって占められており、これは全国平均と比べても非常に高い割合です。この県でシラス台地を利用して生産が盛んに行われている農産物や畜産物の組み合わせとして、最も適切なものを一つ選びなさい。（2016年 岡山県公立入試 類似）

1. リンゴ・乳牛・小麦
2. みかん・鶏・い草
3. さくらんぼ・肉用牛・米
4. サツマイモ・豚・茶

問4　九州南部の鹿児島県などに広がる火山灰層からなる台地において、古くから水田稲作があまり行われず、サツマイモや飼料用トウモロコシなどの畑作、および畜産業が発展した理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明を選びなさい。（2018年 岩手県公立入試 類似）

1. 土壌が非常に硬い岩盤状になっており、農作物の根が深く張ることができないため。
2. 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。
3. 火山灰に含まれる栄養分が多すぎるため、稲が成長しすぎて倒伏してしまうため。
4. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を妨げる性質を持っているため。

問5　九州地方の各県の産業を比較した統計資料において、豚の飼育頭数やきゅうりの生産量、製造品出荷額が一定の規模を有し、かつ「地熱発電量」が約823百万kWhと非常に多く、全国的にも上位に位置する県はどこか、名称を答えなさい。（2024年 愛知県公立入試 類似）

1. 福岡県
2. 大分県
3. 宮崎県
4. 鹿児島県

問6　鹿児島市の沿岸部において、1983年には海だった場所が2004年には「みなと大通り公園」や「水族館」が位置する陸地へと変化した。このような地形の変化をもたらした背景として正しいものはどれか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 大規模な地震によって地盤が急激に隆起し、海面下だった場所が陸地になった。
2. 都市機能の拡充を目的に、土砂などで海を埋め立てて新たな土地を造成した。
3. 地球温暖化の影響で海面が低下したことにより、浅瀬だった場所が自然に陸地化した。
4. 火山の噴火によって流出した溶岩が海岸線に到達し、冷えて固まることで土地が広がった。

問7　九州にある特定の都市の産業別就業者割合を調査したところ、就業者全体の3分の1以上（約33.5%）が、製造業や建設業といった第2次産業に従事していることがわかりました。この都市の産業構造に見られる主な特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）

1. 行政機関や商業施設が集積し、卸売業や小売業などの第3次産業が極めて盛んである。
2. 広大な平野を活用した米作りや施設園芸といった第1次産業が中心である。
3. 歴史的な建造物や自然景観を活かした観光業が、地域経済の基盤となっている。
4. 大規模な自動車の組立工場や関連部品工場が集まって立地している。

問8　鹿児島県の桜島周辺における降灰被害について、冬の2月には降灰が主に火口の南東方向（海側）へ広がるのに対し、夏の8月には火口の北西方向（鹿児島市街地側）へと広がることが統計的に示されています。このように、時期によって降灰の範囲が変化する要因として最も適切な説明はどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため
2. 夏は気温が高いため、噴煙が上昇気流に乗って拡散されなくなるため
3. 周辺を流れる日本海流（黒潮）が、季節によって流路を大きく変えるため
4. 日本付近の上空を流れる偏西風が、季節によって完全に消滅するため

問9　沖縄県と全国の就業者数比率を比較したとき、沖縄県の産業構造に見られる顕著な特徴として正しいものはどれですか。なお、全国の製造業の割合が15.8%であるのに対し沖縄県は5.0%、医療・福祉の割合は全国の12.5%に対し沖縄県は15.7%という統計結果に基づきます。（2022年 沖縄県公立入試 類似）

1. 医療・福祉の就業者数が極端に少なく、製造業が県内最大の雇用を生んでいる
2. 製造業の割合が全国に比べて大幅に低く、第3次産業の割合が高い
3. 第2次産業の割合が全国平均を大きく上回り、工業化が進んでいる
4. 第1次産業から第3次産業まで、すべての就業者比率が全国平均と一致している

問10　宮崎県において、農業産出額に占める畜産の割合が他の都道府県と比較して際立って高い理由として、自然環境や土地利用の背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。（2018年 岩手県公立入試 類似）

1. 年間を通して降水量が極めて少なく乾燥しているため、農作物の栽培よりも家畜の管理に適している。
2. 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広域な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。
3. 大消費地である東京圏に隣接しており、鮮度が重要な生乳や精肉を短時間で出荷できる有利な立地条件にあるため。
4. 冬の寒さが厳しく、ビニールハウスを利用した施設園芸農業よりも、室内で行う畜産業の方が効率が良いため。

問11　九州地方南部に位置する鹿児島県の大隅半島などには、「シラス台地」と呼ばれる火山灰が厚く堆積した地形が広がっています。この地域で肉用牛や豚などの畜産業が盛んになった地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）

1. シラス台地は標高が高く一年中冷涼な気候であるため、暑さに弱い肉用牛の飼育に適した環境であった。
2. シラスは非常に水はけが良く、水田稲作に必要な水を保持しにくかったため、土地を広く活用できる畜産が発展した。
3. 広大な台地をすべて森林にする計画があったが、火山ガスの影響で樹木が育たず、やむを得ず畜産に転換した。
4. 火山灰に含まれる特殊な鉱物資源が家畜の飼料として最適であり、周辺の県からも家畜が集まるようになった。